

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	20-017	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>Influences on drinking choices among Indigenous and non-Indigenous pregnant women in Australia: A qualitative study</p> <p>オーストラリア先住民の妊娠期女性と非先住民の妊娠期女性における飲酒に関する意思決定への影響：定性的研究</p>		
執筆者		
Gibson S, Nagle C, Paul J, McCarthy L, Muggli E.		
掲載誌		
PLoS One. 2020 Apr 30;15(4):e0224719.doi: 10.1371/journal.pone.0224719. eCollection 2020.		
キーワード	PMID	
妊娠期における飲酒、飲酒行動の決定因子	32352991	
要 旨		
<p>目的： オーストラリア先住民と非先住民における妊娠期女性の飲酒に関する意思決定への影響を探索すること。禁酒の啓発メッセージが妊娠期の女性に対して必ずしも効果的でない理由を理解し、健康増進のための個別アプローチを提供することを目的とする。</p> <p>方法： 本研究は、the National Maternity Data Development Project の一部として、2015年11月から2016年3月の間に行った。対象者は、社会経済的特性が異なる地区から18歳以上の妊娠女性で英語での会話と筆記が行える者のうち、出生前の健康診断に参加したオーストラリア先住民および非先住民の妊娠女性それぞれ14人ずつとした。そして、妊娠期の飲酒に関する面接と集団討議を行い、筆記記録を用いて帰納的内容分析を行った。</p> <p>結果： 帰納的内容分析の結果、妊娠期女性の飲酒に影響を及ぼす5つの要因を特定した。それらは、1) 女性の飲酒の害に関する理解の程度、2) 妊娠中の飲酒に関する女性の情報源、3) この情報を元にどのように選択したか、4) 自分自身の妊娠について考え方、5) 社会的・文化的環境の禁酒の支援体制であった。</p> <p>結論： 行動変容のための戦略として、1) 安全だと想定される飲酒の時期、量、酒類についての誤った情報を正すこと、2) 胎児アルコールスペクトラム障害についての正確な認知を図ること、3) アルコールの害に関するメッセージを子どもの健康と知能についてのメッセージに再構築すること、4) 女性の社会的、文化的背景を踏まえた包括的アプローチを開発することが必要である。</p>		